

天草四郎を大将に祭り上げる場面



『嶋原記』上巻外題

『嶋原記』、木版本、3巻3冊、山本九左衛門、宝永元年(1704)版 熊本県立大学歴史学研究室蔵

寛永14年(1637)10月25日に最初の蜂起が起り、翌年2月28日まで続いた島原・天草一揆は、島原藩主松倉勝家が支配する島原半島と、寺沢堅高が支配する唐津藩の飛地・天草諸島の困窮した百姓(農民、漁民、商人、手工業者など)による一揆であった。領主の苛政に窮したことが主因で、そこに飢饉やキリシタン迫害に対する反動などの要因も加わっていった。

なお、この一件が「一揆」ではなく「島原の乱」と呼ばれてきたのは、権力者(幕府)側が自身の正当性と支配の強化のため、「邪悪なキリスト教」の信仰者が「反乱」した事件と描きなおした歴史(の眼差し)が、今日まで継承されてきたことに起因する。

この一揆を題材として民間で作られた仮名草子『嶋原記』は、著者不明ながら、江戸時代を通じて5回上梓された。最も早いのは慶安2年(1649)版で、爾後、寛文13年(1663)、貞享5年(1688)、宝永元年(1704)、宝永5年(1708)と、陸続と版行された。本学所蔵の宝永元年版

は、外題に「嶋原軍物語」とあるものの、内題には確かに「嶋原記」と記されている。

その他、刊記(刊行年や刊行者を示す記述)を備えない『嶋原記』の存在も一定数確認されている。これらは当時の出版権利に関する正規の手続きを経ずに上梓された、いわば海賊版であり、上記5つの正規の版と比べると、摺りも造りも粗悪である。

ところで、元禄3~5年(1690-92)に来日したドイツ人博物学者エンゲルベルト・ケンペル(Engelbert Kaempfer)は、島原・天草一揆の歴史史料と考えた『嶋原記』をヨーロッパに持ち帰ったが、その入手した本は偶然無刊記版であった。元禄日本からケンペルの手に渡った書物の運命は、因らずも、版行年次が謎に包まれた無刊記版『嶋原記』の少なくとも一種が、元禄5年(1692)以前に上梓された事実の証言となった。かような物語以上の史実との邂逅に、歴史が人を蠢惑してやまない所以がある。

熊本県立大学文学部日本語日本文学教授 大島 明秀

「春秋彩」へのご意見・ご感想をお待ちしています。

本誌についてのご意見・ご感想を下記までお寄せください。
いただいたご意見は、今後の広報誌編集の参考にさせていただきます。
〒862-8502 (住所記載不要)
熊本県立大学企画調整室「春秋彩」担当
FAX 096-384-6765 E-mail kikaku@pu-kumamoto.ac.jp

発行：熊本県立大学

〒862-8502 熊本市東区月出3丁目1番100号
TEL 096 (383) 2929 (代)
http://www.pu-kumamoto.ac.jp/

春秋彩

Shunjusai

vol.61
熊本県立大学広報誌
2024
Autumn



CONTENTS

理事長就任のご挨拶	2
特集 地域に根差し 世界を視野に 学内外で活躍する県立大生3人にインタビュー	3
研究活動紹介	7
大学の動き	8
後援会だより	9
生き生き元気種	10
おすすめの一冊・未来基金の報告	11
熊本県立大学アーカイブズ	12

春秋彩とは

万葉集の額田王の春秋を論じた歌の題詞「春山の万花の艶と秋山の千葉の彩」から採ったもの。「春秋」には年月の意味もあり、「春秋に富む」若者を彩る学園の四季を表している。

熊本県立大学
Prefectural University of Kumamoto

理事長就任のご挨拶

火の国、水の国、 半導体の国

今から9万年前。阿蘇カルデラが出現した。噴出した火砕流は当時陸続きだった秋吉台まで流走し、火山灰は日本全国を覆った。火砕流の堆積物や砂礫層が熊本市周辺を広く包み、地下水の受け皿となる地下水盆を形成した。「火の国、水の国」の誕生である。

人類の祖先ホモ・サピエンスが日本列島に上陸したのはおよそ4万年前だから、彼らは現在の熊本に近い地形を見たはずである。

ホモ・サピエンスは弱い。生存のために助け合いが要る。そこで、集団を作った。頭脳が集まり、道具を発明した。さらに社会をつくり、心を生み出した。人は自分の意図を知り、それを伝える言語と論理的思考力を獲得したのである。

道具としての数学が誕生したのは3千年前である。数学は人の認知能力を拡張した。四大文明期には計算機やピタゴラスの定理を用いて、税金の計算や土地の測量を行っている。やがて紀元前5世紀の古代ギリシャ時代になると、計算よりも数学の内部世界が研究対象となり、数学が道具から思考に進化した。

7世紀のアラビアで代数が発達し、15世紀のルネサンスで記号代数が発明されて、数学は物理的制約を受けない普遍的な視座を獲得した。そして17世紀になると微積分が考案され、無限の世界を探究できるようになった。極限や連続性の概念を厳密に考察する結果、主観的な直感を超越した抽象的な記号体系が生まれた。

20世紀に入ると、「数学をする自らの思考について数学をする」試みまでもが行われた。物理的直感や主観的感覚などといった曖昧なものを完全に脱ぎ捨てて脳からあふれだした数学は、ついに計算する機械としてのコンピュータを生み出した。

コンピュータは、当初機械式だったが、やがて電子式に進化した。気体の中で電子を制御したのが真空管である。熱電子を放出するために電球のように輝き、そしてよく壊れた。そこで、気体ではなく固体の中で、熱せずに電子を制御するトランジスタが1948年に発明された。

1958年になると、トランジスタをチップに集積する集積回路が誕生した。たくさんの演算器をチップに集積して、コンピュータの性能は飛躍的に向上し、



理事長 黒田 忠広
Kuroda Tadahiro

高性能になった。一方、コンピュータはさらに大規模な集積回路の設計を可能にした。つまり、コンピュータと半導体が共進化したのである。

コンピュータの進化は、データ通信を進化させ、やがてインターネットを生み出した。地球上のあらゆるデータがインターネットに吸い上げられ、ビッグデータが生まれた。

ビッグデータが、脳の神経細胞の数より多いトランジスタを集積したチップと出会ったことで、人工知能(AI)が誕生した。AIは、物体を判別するなどの認知能力を高め、次に、文章を書いたり絵を描くなどの生成能力を獲得した。

AIは、データセンターや工場をスマートにし、自動運転やヘルスケアなどに応用を広げている。第4次産業革命を起こして、人口減少が止まらない先進国を支えていこう。

だから、半導体産業の成長も加速する。これまで50年かけて作り上げた65兆円の市場を、今後5年余りで倍増する勢いである。

その半導体の世界的製造拠点として、熊本が選ばれた。その理由は3つある。①豊富な水資源がある、②豊かな産業エコシステムがある、③アジアのハイテク拠点の中心に位置する。

くまもと新時代の始まりである。

世界の頭脳を惹きつける魅力的な街づくりが始まる。地元の良さに加えて、世界の文化を取り入れたい。国際連携、環境共生、総合管理がキーワードだ。

諸君は、豊かな大地にしっかりと根を張り、加速する世界の潮流を見つめて、逞しく成長し、大きく羽ばたいていただきたい。熊本を愛し、世界から愛される人になっていただきたい。

くまもと新時代を創るのは諸君だ。 Think Globally, Act Locally !



学内外で目覚ましい活躍

地域に根差し 世界を視野に

県立大生3人に 学生目線でインタビュー

「地域に生き、世界に伸びる」を実践し、学内外で活躍する県立大学生たち。その中から3人の学生を紹介します。1人目は、総合管理学科の本田研究室に所属し、日本政策学生会議の政策フォーラムで優秀政策提言賞(総合2位)をグループ受賞した光永千紘さん。2人目は、大学生英語スピーチコンテストで、ヤングケアラーの経験から「当事者の話に耳を

傾けて」と訴え、準優勝した英語英米文学科の前田さつきさん。3人目は、地元の菊池市を中心に、多文化共生の活動に力を注ぐ英語英米文学科の中原暁さんです。学生自治会長を務めた寶亀理子さんが、同じ学生目線でインタビュー。それぞれ活動の原動力や大学生活について語っていただきました。



インタビュアー
総合管理学部総合管理学科4年
寶亀 理子
ほうき みちこ

放送コンテスト悲願の全国3位

「人のためなら努力できる」

中学、高校と放送部に所属。高校3年時は新型コロナウイルスの影響で目標の全国大会が中止となり、不完全燃焼のまま県立大へ進学。その思いを抱えつつ、学生自治会やゼミでの出会いに大きな刺激を受け、自治会長を務めた2023年

には周囲の協力のもと「新歓オリティ」を3年ぶりに復活。同年、NHK全国大学放送コンテストのアナウンス部門で悲願の3位入賞を果たした。2024年の入学式では司会進行役も務めた。「放送に携わってきたのは、誰かの役に立ちたいから。人のためなら努力できる」。今後、幅広い世界で、「人と関わっていききたい」。

もっと上を目指したい

総合管理学部 総合管理学科 4年

光永 千紘 さん
みつなが ちひろ



政策フォーラムでグループ2位 学生と政治をつなぐ活動も

—参加した政策フォーラムで、グループで優秀政策提言賞（総合2位）を受賞されたときの気持ちは？

受賞前から達成感はありませんでしたが、研究を客観的に評価してもらえたことがとてもうれしかったです。

—どんな研究ですか？

私の実家はイ草農家で、メンバー5人も身近に“農業”があったという共通点があり、その課題を生産者の目線で解消したいと考えました。野菜を加工するなどして収益を上げる6次産業について、効果的な取り組みを統計分析しました。



—「統計」×「農業」の組み合わせは意外な気がします。

先行研究の少ない分野なので、これは挑戦でした。農林水産省の持つ6次産業のすべての事例集を基に統計分析して、さらに農家や関係機関にヒアリング調査を行いました。メンバーと夏休みを返上して研究に没頭したことは、楽しい思い出です。

—議員インターンシップの橋渡しをする、NPO法人「ドットジェイピー」に参加するきっかけは？

1年生のときに先輩に誘われて、単純に楽しそうだったので参加しました。ただ、当時は政治に関心はありませんでした(笑)。最初の夏は議員インターンとして活動して、その後は運営に携わりました。全国の支部の人たちと交流したほか、イベントの設計やプレゼン、ほかのインターンの受け入れ先探しなどで大人と接する機会が多く、刺激を受けました。

県立大で世界が広がった

—活動のモチベーションは何だったのでしょうか？

私は希望の大学に合格できず、この大学に進学しました。不安や劣等感から、「このままではダメだ。もっと成長しなければ」という気持ちが強かった。根っこがすごくネガティブなんです(笑)。研究の結果を残せたのも、本田先生やメンバーがいたから。自分の力には満足していないので、まだまだ上を目指してがんばります。

—県立大学のイメージは変わりましたか？

総合管理学部では、情報やビジネス、公共など幅広く学べます。それがいいことなのか最初は分かりませんでしたが、私は未来の選択肢が増えて世界が広がりました。ここで過ごせてよかったと、心から思っています。

—同じ悩みを抱える人にとって、よいロールモデルになりそう。夢や目標は見つかりましたか？

自分の力を外で試したくなりました。就職は県外ですが、いずれは熊本に戻ってきて、自治体に貢献できるコンサルティングに携わりたいと考えています。

—私もこの大学で視野が広がったので、その気持ちは分かります。

まさに、大学が掲げる“地域に生き、世界に伸びる”ですよ。

—在学生や県立大学を目指す人たちにメッセージをお願いします。

楽しいと思えることを一生懸命やって、自分なりの正解をつくっていかばいいと思います。

介護の葛藤を英語で伝える

文学部英語英米文学科 3年

前田 さつき さん
まえだ



スピーチコンテスト準優勝

—学業と介護の両立は大変ですか？

そうですね。環境共生学部の居住環境学専攻から文学部の英語英米文学科への転部と、ドイツ留学を経験し、大学に6年在籍しています。介護は約3年前からなので、大学生活と重なっています。祖父は転倒をきっかけに症状が一気に悪化したため、最初はとても戸惑いました。

—介護をしながら学ぶことを諦めなかった、モチベーションや理由を教えてください。

母子家庭で家の手回しは普通のことでしたから、諦めるという選択はありませんでした。もちろん介護は大変で、学業に影響も出ましたが、母や祖母と補い合っとうにか継続できました。時間の使い方を工夫できるようになった点は大きいですね。

—コンテストでは「A Helping Ear」、日本語訳で「耳助け」という言葉を使っています。多様化する社会では、家庭の事情には踏み込みにくい気がします。

私は、「ヤングケアラー」という用語を教えるだけの社会に問題があると思っています。学校を休むとき、体調不良や引きこもりと同じように、「家族の世話で休む」という理由も言えたら、小学生でも理解できるようになります。そうした動きがあれば、踏み込みやすくなるのでは。私自身、介護の葛藤は主に家族で話し合っていますが、もしかすると、コンテストへの参加が家族以外の人に話すきっかけになったら、どこかで思っていたのかもしれない。

—転部という発想が私自身になかったのが、驚きました。きっかけは？

最初は、建築士を目指して入学しました。好きな英語は、プラスαで極めたいと考えていました。でも海外に出ていく人たちの羨(うらや)ましさと、自分の可能性を諦めきれない気持ちが心から離れませんでした。

学びの翼をはためかせた

—英語はいつから勉強していたのですか？

先に英語にのめり込んだのは兄でした。私も兄も、交通遺児英会会の制度を利用して、高校の時にアメリカでホームステイしました。ホストファミリーに自分の英語が伝わったことがうれしくて、上手になりたい一心でした。

—大学で、利用したら得られるものが大きいと思う場所がありますか？

環境共生学部で出会ったジェフリー・モロー先生が、今年度よりセンター長を務めているグローバル棟のCIEE(国際教育交流センター)は、英語の資料や映画のDVDが揃い、入学当初からワクワク



する場所でした。当時のセンター職員の方との会話を通して、留学や国際交流について多くのことを知り、さらにモチベーションが上がりました。県立大は先生や職員との距離が近いのも魅力。私はこの出会いによって、大学生活が大きく広がりました。教材もたくさんあるので、ぜひ活用してほしいです。

—転部を経験した前田さんが大切にしていることは？

授業を受けたらそこで終わりにせず、覚えて身につけること。2年間学んだ居住分野の知識が、英文学で役立つこともあるんですよ。

—在学生や県立大学を目指す人たちにメッセージをお願いします。

この大学では、学科の垣根を越えていろいろ学べるので、「たとえ道筋が立ってなくても、悩んでいいよ」と伝えたいです。

国籍を越えて人をつなぐ

文学部英語英米文学科 4年

中原 暁 さん
なかはら あきら



人間同士の交流をアシスト

—異文化交流の学外活動について、詳しく教えてください。

「せいかいかいぎ」という地元の菊池市に暮らす外国人と私たち日本人ボランティアが集まり、イベントの企画や地域イベントへの出店・ステージ発表などを行っています。菊池市中央図書館が開く日本語教室の放課後活動として始まったもので、私は運営リーダーを任されています。

—語学教室ではなく、交流を生む場ですか？

はい。参加者は日本語を熱心に勉強しているので、「次はこんなイベントがあるよ」という説明も、簡単な日本語で伝えれば理解し合えます。

—いわゆる「やさしい日本語」ですね。私もゼミで訪れた台湾で、い草のワークショップに携わるために勉強しました。

意外と難しいですよ。でも、外国人が日本語の勉強をがんばって、日本のコミュニティに溶け込むことに携われてうれしいです。

—参加する外国人の反応はどうですか？

「仕事や生活の悩みを話せる第三の居場所だ」という声を聞きます。国籍に関係なく、みんな個性があってユニーク。互いにつながりをたくさん持ってほしいです。私個人では、熊本市でネイティブの人も参加した英会話での交流会も行っています。



出会いと学びが夢を引き寄せた

—中原さんの出身高校は、バレーボールの強豪校です。

今もやっていますが、小中高はバレー漬けでした。ただ勉強も好きで、英語は中学のALTの先生と出会って好きになりました。

—学外の活動と学業を両立させるコツがあったら教えてください。

両立というよりも、学んだことを外で試すために、学外の活動が増えたという感じです。

—アウトプットの実感ですね。

幅広い活動のモチベーションは、どこから生まれるのですか？

起業家になりたい思いもあって、出会いと学びを繰り返しました。できることが増えると自信がつき、次につながりました。応援してくれる人の存在も大きいですね。

—総合管理学部の授業も受けていますよね。

エンジニアとして就職が決まり、スキルアップのために受けています。この仕事を目指したのは、語学交流アプリで知り合った人の影響です。教員免許を取らずに、プログラミングスクールのオンライン授業を半年間受けました。

—英語が出会いを生み、夢を与えてくれたんですね。

バレーや2つの学外活動など、五刀流です(笑)。

バレーで培った体力のおかげです(笑)。就職先は、東京の教育系IT企業。アウトプットの楽しさを知ったので、自主学習する学生が増えてほしいと思って選びました。

—「せいかいかいぎ」の活動は誰かに引き継ぐのですか？

今の課題です。若い人に地元の魅力をPRすることが解決の糸口だと、みんなで戦略を練っています。

—将来的に、多文化共生に関わる仕事をしたいですか？

いずれはプログラミングのスキルを役立てて、国籍の区別なく人をつなぐ「地域交流」をしたいです。私は日本語を話せる外国人には、語学習得努力へのリスペクトから日本語で接しています。彼らが力を発揮できる場を、引き続きつくれたらいいと思います。

課題解決のためのものづくり

私は「人間の行動や心理に適した建物を計画するための研究とその応用を考える」建築計画学を専門としています。研究活動のモットーは、「調査研究だけで終わるのではなく、「課題解決のためのものづくり」を活動の中心に据えています。ここではこれまでどのような研究を行ったか、その成果としてどのようなものを作ってきたかを紹介させていただきます。

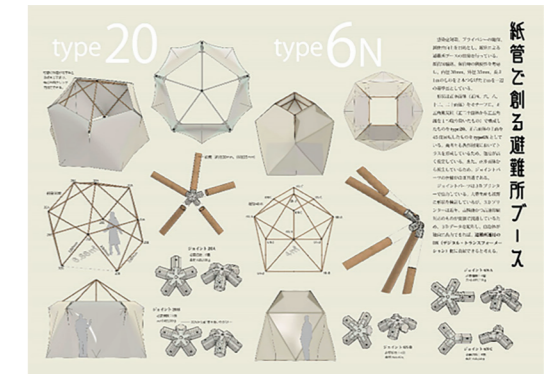
空き家問題を解決するために空き家バンクを構築しよう！

令和5年総務省住宅・土地統計調査で、日本の空き家数は900万戸、空き家率は13.8%と過去最多を更新し、空き家は大きな社会問題になっています。空き家の活用を促進するために、多くの自治体で空き家バンクが構築・運用されていますが、登録物件・成約物件の少なさが課題となっています。熊本県宇城市も2009年に空き家バンクを開設し、運用してきましたが、2018年までの累積登録数は28件、累積成約数は15件という状況でした。「ユーザーに空き家情報を分かりやすく伝えることができれば、空き家の活用促進に繋がるとはならないか」と考え、VR(360度画像)によるバーチャル内覧、検索機能、アクセス解析を組み込んだ「宇城市空き家・空き地バンク360」を2022年4月に開設しました。2年3カ月の運用で、アクセス数は39.6万件、ユーザー数は22万人、累積成約数は48件と大幅に伸び、成約数はリニューアル前年と比較し約3倍に増えました。この研究成果は、2023年4月に熊本県が新たに構築した「熊本県空き家バンクプラットフォーム」にも活用されています。

子どもでも作れる避難所の間仕切りブースを開発しよう！

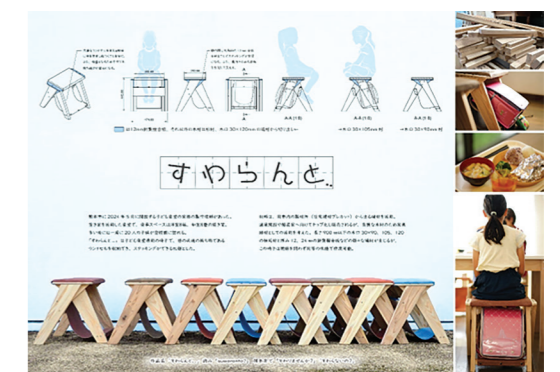
災害時の避難所の間仕切りは、プライバシーの確保、感染症予防に効果があります。世界的な建築家、坂茂氏が開発した紙管間仕切りシステムはとても有名です。ただ、組立には工具と専門的な知識・技術が必要です。「輸送・保管のことを考え、細くて短い紙管を使い、子供

でも組み立てられる間仕切りブースを開発すれば、避難者自らが避難所空間を構築できるのではないかと考え、3Dプリンターを活用したジョイントシステムの開発を行っています。形状は正多面体をモチーフに、Type20、Type6Nの2つがあります。両者とも各部材間でトラスを形成しているため、強度が高く安定しています。3Dデータを配布し、自治体が独自に出力できれば、避難所運営のDX化に貢献できると考えています。



子ども食堂専用の家具を開発しよう！

2024年5月に、熊本市東区月出に開設された子ども食堂の家具レイアウト提案依頼がありました。空き家を活用しており、食事スペースに使えるのは洋室8帖、和室8畳の続き間のみで、多い時には20人の小学生がランドセルを背負って登校前に訪れます。棚等をつくるスペースはありません。「既製品ではなく、ランドセルを収納できる椅子をつくれれば、狭い空間を有効に活用できるのでは」と考え、子供食堂専用椅子「すわらんと..」を制作しました。材料は市内の製材所から出る端材を活用しています。機能性と環境性が評価され、「木材を使った家具のデザインコンペ2024」で入選作品に選ばれました。



プロフィール

横浜国立大学大学院工学府社会空間システム学博士課程(後期)修了。博士(工学)。
2015年より本学勤務

准教授 佐藤 哲
環境共生学部居住環境学専攻



大学の動き

白石前理事長が退任、黒田新理事長が就任しました

2024年3月31日付で、白石隆前理事長が任期満了により退任しました。2018年の就任以来、6年間大学発展に大きく寄与され、本学の存在感の向上に多大なる御尽力をいただきました。

また、2024年4月1日付で、黒田忠広新理事長が就任しました。同日、熊本県庁で行われた任命式では、蒲島郁夫熊本県知事(当時)より任命書が手渡されました。黒田理事長は「世界中から熊本に集まってくる方々との交流イベ

ントを開催したい」「教職員と力を合わせて細やかな教育を行っていききたい」など、理事長就任にあたり抱負を述べました。

黒田理事長は1959年、三重県四日市市生まれ。東京大学工学部卒。東芝研究員、慶大教授などを経て2019年から東京大学教授。「半導体のオリンピック」と称される国際会議ISSCCで、60年間に最も多くの論文を発表した世界の研究者10人に選ばれました。



退任記者会見を行う白石前理事長



左:黒田新理事長、右:蒲島知事(当時)

オンライン特別講座「球磨川流域圏バーチャルキャンパス」を好評配信中！

令和2年7月豪雨による災害からの創造的復興をめざし、球磨川流域圏の文化、歴史、環境をテーマにした**オンライン特別講座「球磨川流域圏バーチャルキャンパス」**も今年で4年目を迎えます。

2024年度は、学内外の9人の多彩な講師陣による11講座をYouTubeにより10月から順次配信中です。ご興味のある方は、QRコードを読み取り、WEBサイト「地域ラブラトリー」からお申し込みください。

*配信期間

2024年10月1日(火)～2025年1月31日(金)

WEBサイト「地域ラブラトリー」の募集ページに掲載している応募フォームからお申込ください。



お申込にはご自身のYouTubeアカウントが必要です。詳しくは募集ページをご覧ください。



募集ページへ

<https://puk-loveratory.com/news/15239/>

韓国・祥明(サンミョン)大専科から短期研修団が来学しました！

2024年6月25日から7月2日までの8日間、韓国・祥明大専科から、8名の研修団が本学を訪れました。同校とは、1989年に姉妹提携をしており、1990年以降、短期研修団の相互派遣を行っています。

31回目を迎える今年度の研修では、日本語の授業を受講したほか、生け花体験やこども園訪問を通じた本学学生や地域との交流、古典アニメ・映画上映会への参加、八千代座見学(山鹿市)等のフィールドトリップを行い、訪れた観光地について、日本語での成果発表を行いました。



2024年7月2日研修最終日。本学ボランティア学生との記念撮影

就職活動をはじめ、多彩に学生をサポート

新規事業のお知らせ

後援会では2024年度より新たに、『就職活動支援事業』を始めます。この事業では、学生の皆さんが、インターンシップ、企業説明会、選考試験、内定式及びキャリア体験演習等に参加する際に負担する交通費及び宿泊費の2分の1以内の額(上限5千円)を、1年度あたり2回まで助成します。ただし、後援会会員であることが条件です。

インターンシップは学生のうちに「お試し」でいろいろな企業

で働ける貴重な機会です。ぜひ本事業を活用して積極的に参加してください。また、この他、サークル活動で生じる、大会等参加の負担金、物品等の購入費、交通費及び宿泊費などの経費に対する助成金を増額してサークル活動の活性化を支援します。

後援会からのお知らせ

後援会では、就職活動を支援しています！

インターンシップ、企業説明会、選考試験、内定式、キャリア体験演習等就職活動に伴う交通費、宿泊費の一部を助成しています

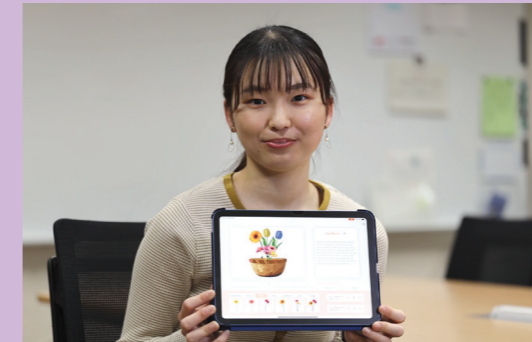
- ・事前に申請する必要があります。
- ・年度2回のみ助成です。
- ・一回当たり実費の2分の1(上限5,000円)の助成です。
- ・実際にかかった経費の領収書が必要です。

※申請書は後援会窓口にあります。
※領収書の原本が必要な方は、申請の際に申し出ください。
※インターンシップに参加する場合は参加証明書が必要です

問い合わせ先: 熊本県立大学後援会
本部棟1階学生支援課内 TEL: 096-363-7896

総合管理学部の秋岡菜々子さん(飯村研究室所属)が、米Apple社が開催するWWDC24 Swift Student Challengeで入賞しました！

米Apple社が世界中の開発者向けにハードウェアやソフトウェアの開発における将来の見通しについて発表するWorldwide Developers Conference (WWDC)のイベントの一つに、世界中の学生開発者たちが自由に選んだテーマでコーディングの実力を披露するためのSwift Student Challengeがあります。総合管理学部・飯村研究室に所属する秋岡菜々子さんが今年開催のWWDC24 Swift Student Challengeで、世界中の350名の学生たちとともに入賞者(Winner)に選ばれました。



入賞した秋岡菜々子さんとSwift Student Challengeに応募したアプリケーションの画面

秋岡さんは、WWDC24の初日である6月10日(太平洋時間)にApple Parkで開催された特別なイベントに招待され、Appleの最高経営責任者(CEO)であるTim Cook氏の講演を聴き、Appleのエンジニアと直接交流し意見を交わすなど、大変貴重な経験をしてきました。

秋岡さんは昨年のWWDC23 Swift Student Challengeでも入賞しており、2年連続の入賞となります。なお、飯村研究室からは3年連続で入賞者を輩出しました。



Susan Prescott, Apple's vice president of Worldwide Developer Relationsとのセルフイー

後援会だより

《就職対策事業》

- 就職対策講座(公務員試験対策)の助成、資格取得及び講座受講等助成 他
- 就職活動(インターンシップ等)経費(交通費及び宿泊費)の一部助成、各学部・学科・専攻で行うキャリア形成支援事業助成、在学生就職アドバイザー配置支援、TOEIC®IP学内試験への実施支援、就職・進学用写真代助成、保護者用就職ガイドブック作成配付 他

《学生活動支援事業》

- サークル活動費助成、白亜祭・PUKリンピック開催経費助成、インカレ出場助成、全国大会等出場助成 他
- キャンパス活動支援、学生用カラーコピー機の設置、コピーカード配布・販売、食育支援(野菜スープ提供)、予防接種費用助成 他
- 学生のリクエストに応じ図書を購入し図書館へ配置 他

《国際交流推進事業》

- 海外留学助成、留学対策講座助成、留学生による学生等向け語学講座開講支援、国際交流事業助成 他

《教育研究推進事業・その他》

- 共同自主研究への助成、現地学習バス借上助成、インターゼミナール大会等への参加助成 他
- 卒業式のガウン貸与、記念品贈呈 他

生き生き元気種

このコーナーでは地域で活躍する熊本県立大生の声をお届けします。



フラワーアレンジメントの体験

SalVage (サルベジ)

代表者 かわかみ さや 川上 沙弥 (総合管理学部総合管理学科 2年)

規格外野菜、農業をもっと身近に

私たちSalVage(サルベジ)は、規格外野菜の認知拡大や普及、熊本の地域理解及び未来創生を目的に活動しています。

今回は、私たちが行っている活動をいくつか紹介させていただきます。

まず私たちのメインの活動は、農家の方への取材です。規格外野菜の認知拡大を行うため、農家の方が耕作されている畑へ直接足を運び、農作業を体験し、インタビューを行っています。さまざまな農家の方を取材していく中で、知識だけではなく農業の大変さ、大切さを実感しています。また先日は農作物だけでなく、新型コロナウイルス以降、イベントの減少等により需要が減少した花を生産されている農家にも取材させていただき、当時の取り組みなどをお聞きすることができました。

次にご紹介するのは、食育の日のお弁当メニューの考案です。熊本県立大学には「食育の日」と呼ばれる日が月に1度あります。その「食育の日」に1日限定で発売されるお弁当のメニューを、食育に取り組む「たべラボ」・「みくまり」とコラボし、SalVageで考案させていただきました。少しでも農業を身近に感じてもらうた



「食育の日」お弁当

め、テーマとなる市町村で作られた地元野菜や規格外野菜をふんだんに取り入れたメニューとなっており、楽しく美味しく学べるお弁当を多くの方に提供することができました。今年5月に販売されたお弁当では、「祝山都潤潤橋国宝指定」ということで、山都町の豊かで魅力ある食材を取り入れたメニューを考案させていただきました。「五香粉」を使った台湾風の薬膳料理をメインとし、あっという間の完売となりました。

また、ここ数年は肥後花市場とSalVageで「20歳からの花贈り」というイベントを開催し、フラワーアレンジメントの体験を実施しております。こちらのイベントに参加された方々は熊本県産の生花を使って思い思いのフラワーアレンジメントを楽しんでいただきました。その他にもマルシェの開催・お手伝い、小学生向けの講演会など様々な活動を行っています。

SalVageは設立して間もない団体ですが、幅広く自由な活動ができます。また、地域で活躍している方や農家の方の声を直接聞くという体験は、「ガクチカ」として後々の就活の際にもきっと役立ちます。ご興味のある方は、ぜひInstagramでSalVageと検索してみてください！皆さんの参加を心からお待ちしています。



花農家の取材

お一冊

万葉集に出会う

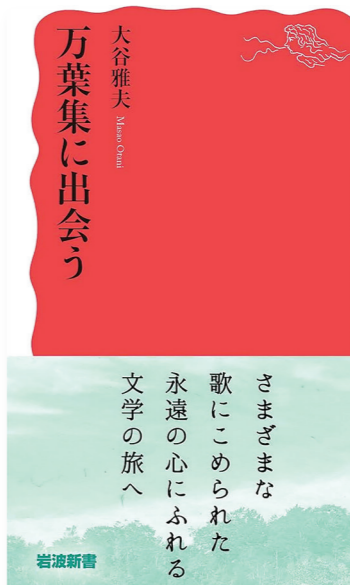
大谷雅夫著

出版社：岩波書店 出版年：2021年8月
ISBN978-4-00-431892-7

「春秋彩」という本誌のタイトルの由来をご存知でしょうか。毎号の表紙にさりげなく書かれてありますが、『万葉集』巻一・16番歌、額田王の歌の題詞から取られたとのこと。『万葉集』の歌が、1300年の時を越えて本学に息づいていると思うと、妙な感慨を覚えます。

さて、8世紀の日本には、まだ平仮名が存在せず、歌も全て漢字で記されました。そのため、後世の読者が『万葉集』の歌を理解するためには、何よりもまず歌の訓みを確定させなければなりません。それは即ち、確かな解釈を導くことと直結します。しかし意外なことに、「東野の野に炎の立つ見えてかへり見すれば月傾きぬ(原文は「東野炎立所見而反見為者月西渡」) (巻一・48)」という、柿本人麻呂の有名な歌ですら、本当にその訓みでよいのか、実はまだ定まっていないのです。

本書は、こうした問題に正面から取り組んだ著者が、その成果をわかりやすく新書にまとめたものです。緻密な検証によってことばと向き合い、謎を紐解いて行く展開は、読者を期待させて、裏切りません。古典を読むとはどういうことか、その原点を改めて考えさせる一冊です。



文学部
日本語日本文学科
准教授
岩田芳子

さまざまに
歌にこめられた
永遠の心にふれる
文学の旅へ

熊本県立大学未来基金への御協力に心より御礼申し上げます。

未来基金寄附者御芳名(2023年度実績)

個人:6件、法人・団体等:4件、古本募金:11件

1 個人

10万円 渡邊 純子
※お名前のみ掲載 荻本 能武子、黒木 誉之、安田 愛子
※お名前の掲載を希望されなかった方 2件

2 法人・団体等

200万円 熊本県立大学同窓会紫苑会(令和5年度分として)
30万円 櫻井精技株式会社
20万円 株式会社本田設計コンサルタント
92万円 オンラインチャリティイベントGiving Campaign

個人寄附者

泊 皇、清田 紗帆、中原 暁、西山 凜、本田 陸斗、上戸 雄俊、北岡 忠勇、本田 昌恵、藤岡 千恵、こちゃ に一す、坂口 鷹宗、中村 哲、宮原 幸平、齋藤 陽太、犬童 淳一郎

パートナー企業

ヤフー株式会社、有人宇宙システム株式会社、アマゾン ウェブ サービス ジャパン株式会社、Fundinno、Yogibo、Google、野村證券株式会社、WebX、Adobe、株式会社SHIFT、三菱地所株式会社、株式会社東京大学エッジキャピタルパートナーズ、東大

IPC、一般社団法人教育イノベーション協議会、日本ファンドレイジング協会

3 古本募金(件数のみ記載)

11件

未来基金活用実績(2023年度実績)

学生支援 同窓会紫苑会奨学金	1,800,000円
海外留学支援 小辻梅子奨学金	375,000円
国際シンポジウムの開催	1,294,679円
サークル等学生団体の支援	604,495円

基金創設(2009年9月)以来の寄附金総額は、156,905,147円となりました。
(※受取利息は含まない。)